

令和3年11月29日
部長会議資料

〔長野市商工業振興・雇用促進計画（案）〕

及び

〔長野市観光振興計画（案）〕

に対する市民意見等の募集の実施について

商工観光部

1. 計画の位置付けと期間

本計画は、本市のまちづくりの指針である「第五次長野市総合計画」の個別計画として位置付けているもので、市内の関連計画等との整合を図り、商工業振興及び雇用促進に関して、目指すべき将来像や、実現に向けた視点、具体的な方針・施策を示し、取組を進めます。

計画期間：令和4（2022）年度から令和8（2026）年度までの5年間

2. 将来像（現行計画の将来像を継続）

活力ある商工業の連携が賑わいを生み、多様な働き方ができるまち『ながの』

3. 長野市の商工業・雇用の現状と課題

商業	工業	雇用
1. 商圈人口の減少 2. 商店街数の減少 3. 地元滞留率の低下 4. <u>ECの普及による消費行動の変化</u> 5. <u>新型コロナウイルスの感染拡大によるライフスタイルの変化</u> 6. <u>近隣自治体で予定されている大型商業施設の開業</u>	1. 低位に留まる労働生産性 2. 企業ニーズに対応した企業誘致の展開 3. <u>産学官金の一層の連携強化</u> 4. 市内経済の循環性向上 5. <u>生産性向上に寄与する先端技術・設備(AI・IoT)の活用</u>	1. 生産年齢人口の減少 2. <u>若者のUJIターン</u> 3. <u>高齢者の雇用拡大</u> 4. 女性や就職氷河期世代への就労支援 5. 非正規雇用の増加 6. <u>「働き方改革」の実現</u>

4. 基本方針・推進施策

基本方針① 商工業の基盤強化と環境整備の促進

中小企業の経営基盤を強化するため、**人材育成**や**事業承継**等の課題を有する**企業者等を支援**します。

【推進施策1】商工業の基盤強化

- 中小企業振興資金の融資
- 小規模事業者のデジタル化支援

【推進施策2】事業継続につながる人材育成等の支援

- 事業承継等促進事業補助金
- ものづくり産業中小企業者等人材育成事業

【推進施策3】商店街の環境整備

- 商店街賑わい演出事業
- 歩行者通行量調査

基本方針② 地域の特性が光る商工業の推進

先端技術を活用した生産性の向上や、ものづくり企業が関連機関と実施する**新製品や新技術の開発**を支援します。

【推進施策1】先端技術を導入した付加価値の向上

- 情報通信技術活用セミナー等の開催
- 中小企業のDX推進

【推進施策2】付加価値の高い技術・製品の開発支援

- ものづくり支援センターの運営
- 外部人材活用促進

【推進施策3】集客力向上と販路開拓の推進

- 長野市の観光と物産展実行委員会の企画・運営
- 販路開拓支援（各種産業展への出展支援）

4. 基本方針・推進施策

基本方針③ 新たな活力につながる産業の創出

産学官金の連携により起業家を創出し、成長を支援するとともに、新たな産業創出やICT産業の集積を促進します。

【推進施策1】新たな担い手の確保

- スタートアップ・エコシステムの形成支援
- 産業用地開発

【推進施策2】新産業の創出・育成

- 新産業創出事業（新商品開発のための調査研究等支援）
- 高等教育機関との連携

【推進施策3】ICT産業の集積促進

- IT人材育成支援
- 高度ICT技術者雇用促進

基本方針④ 就労の促進と多様な働き方の支援

働きたい人が働ける社会の実現に向け、就労支援やマッチング機会を拡充するとともに、勤労者が心身ともに健康で働くことができる環境づくりを促進します。

【推進施策1】幅広い世代への就労支援

- 生涯現役促進地域連携事業

【推進施策2】情報提供とマッチング機会の拡充

- 市内学生市内就職応援事業

【推進施策3】多様な働き方を実現する環境づくり

- 働き方改革の推進

【推進施策4】職業能力向上と職業訓練の支援

- 職業訓練協会への支援

【推進施策5】福利厚生増進による勤労者生活の充実

- 勤労者福祉施設の運営

5. 主な目標指標

担当	指標	指標の説明	基準値(R2)	目標値(R8)	目標設定の説明
商業分野	1世帯あたりの市内での月間消費支出額	長野市1世帯当たりの月間消費支出額に長野市の地元滞留率を乗じて推計	132,759 (円)	160,000 (円)	コロナの影響や今後の大型商業施設等の動向から、過去5年間で最も高い水準（令和元年度）を目指す。
	まちなかパーキング利用者数（年間）	長野地区中心市街地における長野まちなかパーキングの共通駐車サービス券の回収枚数	348,655 (枚)	478,000 (枚)	過去の実績等を踏まえ、令和元年から年間約11,000枚の増加を見込む。
	中心市街地歩行者通行量（1日間）	大門駐車場、権堂町、権堂大通り、長野銀座、南千歳町及び末広町6地点における歩行者及び自転車の1日間の通行者の数	75,820 (人)	126,000 (人)	過去10年間で最も多い歩行者通行量の水準（平成23年度）を目指す。
工業分野	製造品出荷額等	市内の従業者4人以上の事業所の年間製造品出荷額等	5,938 (億円)	6,802 (億円)	過去の実績を踏まえ、年間144億円の増加を目指す。
	大学等と共同で新技術・新製品の開発を行う件数（累計）	長野市ものづくり研究開発事業の選定を経て、大学等と共同開発を行う事業の延べ件数【H17からの累計】	45 (件)	62 (件)	過去の実績を踏まえ、年間3件の増加を見込む。
	雇用創出人数（累計）	雇用創出企業立地支援事業助成金における雇用創出人数とオフィス家賃等補助事業助成金等における雇用者数（新設・転入事業所分）の合計の数【H25からの累計】	374 (人)	626 (人)	過去の実績を踏まえ、年間42人の増加を見込む。
雇用分野	推計就業者数	給与支払報告書や確定申告書、市・県民税申告書を有する者の人数を「推計就業者数」として推計	207,648 (人)	210,000 (人)	実績値等を踏まえ、過去5年間で最も高い水準（令和元年度）の維持を目指す。
	就職情報サイト「おしごとながの」登録企業数	就職情報サイト「おしごとながの」の登録企業数	359 (社)	380 (社)	過去の実績値等を踏まえ、年間おおむね5%ずつの増加を目指す。
	UJIターン就職促進事業の参加者数	「ナガノのシゴト博」（学生編）の年間の参加者数	185 (人)	220 (人)	過去の実績値等を踏まえ、年間3%ずつの参加者数の増加を目指す。

1 計画の目的

長野市観光振興計画は、観光客に価値を提供するため、本市の観光が何を目指し、どのような取り組みを行うべきかを記載したものです。本計画に基づいた事業の実施を通じて「**地域経済の活性化**」と「**地域コミュニティの活性化**」を目指します。

2 計画の位置付けと期間

本計画は、「第5次長野市総合計画」の個別計画であり、それに示される観光振興施策をより具体化・実現化するために策定します。また、「長期戦略2040」等、その他諸計画と連携・調整を図ります。

計画期間：令和4年度（2022年）から令和8年度（2026年）までの5年間

3 現行計画の課題/今後の方向性

【現状と課題】

- 新型コロナウイルスや災害などから、本市の観光産業は大きな影響を受けており、それらに対応した施策を展開していく必要がある
- 新型コロナウイルス感染拡大後のウィズコロナ、アフターコロナ時代に対応する新たな観光スタイルへの対応が求められている
- 地球温暖化対策への関心の高まりの中、観光のあり方を環境配慮型に転換していく必要がある
- 市内の各地区ごとに観光の成熟度や実情が異なるため、コンテンツ開発や周遊促進等の施策はそれぞれの地区に合わせた方法で進める必要がある



【今後の方向性】

上記課題を解決するため、今後の新しい観光の潮流を踏まえ、
持続可能な観光、ウィズコロナ、アフターコロナ等に対応した観光振興を行っていくことが必要

4 観光振興の基本方針

- ① 持続可能性を担保した観光産業への転換
- ② 新たな観光スタイルに対応した観光への転換
- ③ 人と人とのつながりを大切にした「ながのファン」づくりの強化
- ④ Z世代など若者の観光需要の喚起
- ⑤ 地域の成熟度に合わせて観光振興
- ⑥ インバウンドの回復を見据えた環境整備
- ⑦ DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進による観光サービスの提供
- ⑧ 災害やコロナなど情勢の変化に対応した観光地づくり

5 計画の体系

重点政策①：地域資源を最大限活かした誘客

- ①-1 地域資源を活用した魅力的で多様なコンテンツの創出と流通促進
- ①-2 地域を守り、未来へつなぐ観光振興
- ①-3 コミュニケーションを通じたファンづくり



地区別方針 実践プロジェクト

地区別方針を設定し、重点政策①と連動を図りながら、方針に基づき旅行商品等の開発に取り組む

重点政策②：長野市の魅力を活かしたインバウンドの推進

- ②-1 長野市の特長的な資源を活用したコンテンツ開発、環境整備
- ②-2 ターゲットに届く効果的な情報発信



重点政策③：オリンピックレガシー等を最大限活かしたコンベンションの誘致

- ③-1 コンベンション誘致の強化
- ③-2 地域資源を活かしたフィルムコミッションの強化

重点政策④：快適で安全、スマートな観光を実現する基盤の整備

- ④-1 DXの推進による快適な滞在環境の構築
- ④-2 災害に強い観光都市基盤の構築

6 地区別方針と実践プロジェクト

	地区別方針	実践プロジェクト
善光寺・ 中心市街地	善光寺や宿坊など長野らしい観光資源が豊富にある地区であり、これからは長野市の観光の起点として本市観光をけん引する役割を担うことを目指し、観光資源を活かしたコンテンツ開発及び周遊を促進していきます。	●善光寺界隈・まちなか周遊促進プロジェクト 善光寺・中心市街の周遊を促進するため、様々な観光関連事業者と連携し、周遊促進コンテンツを開発するとともに、周遊を促す仕組みを構築します。
戸隠・ 飯綱高原	＜戸隠＞ 自然・歴史・文化等の資源を次代に受け渡し、新しい観光スタイルを確立させます。観光客と長期にわたる関係を構築する取組みを強化します。	●地域の自然・歴史・文化と調和した長期滞在観光の実現プロジェクト 戸隠の特徴を活かした観光コンテンツ開発を進めるとともに、長期滞在を可能にする仕組みを構築します。
	＜飯綱高原＞ 自然やアウトドアを中心にコンテンツを開発し戸隠地区や他市町村とも連携し周遊を促進していきます。	●飯綱アウトドア観光推進プロジェクト 自然を活かしたアウトドアコンテンツ開発を中心に進め、戸隠や他地域への周遊を促します。
松代	250年にわたり栄えた城下町としての歴史や文化、松代温泉などの観光資源を活かしながら、観光産業の基盤を発展させるために、松代ならではの資源を活かしたコンテンツを充実させ、周遊を促し、観光消費額を増やします。	●宿泊客のまちなか周遊促進プロジェクト 松代荘などに宿泊する観光客がまちを周遊し、買い物や食事を楽しむことで地域の観光消費を増やします。
中山間地域	観光の力を活用した里山地域の風景や暮らしの維持を図り、これからの活用が期待される地域資源（アウトドアフィールド・里山の暮らし・文化・食など）の発掘・磨き上げ・発信に取り組めます。	●スロートーリズム推進プロジェクト 中山間地にある様々な地域資源を発掘し、磨き上げ、またそれらの観光資源を線で結び、観光客が中山間地を周遊する仕組みを作ります。

7 計画の最終成果指標

本計画が目指すゴールへの到達度を示す指標を設定します。これらの指標は、観光関連事業者、ながの観光コンベンションビューロー、各観光協会、行政がそれぞれの役割を果たすこと、特に観光関連事業者が良質な観光コンテンツ等を生み出すことで消費が生まれ、経済が活性化することで達成されます。

■経済波及額、消費額、宿泊者数、入込客数

		基準値 *1 (平常年)	目標設定の 考え方	R4年度 (ご開帳)	R5年度	R6年度 (中間年の目標)	R7年度	R8年度 (最終年の目標)
観光による地域への 経済波及額(億円)		784	一人当たり観光消費額・観光入込客数の伸び率に準じて上昇	1,008	645	807	823	839
一人当たり観光消費額 (円)	全体	11,991	基準値をベースに最終年度で5%上昇	12,111	12,231	12,351	12,471	12,591
	宿泊客	20,280		20,483	20,686	20,888	21,091	21,294
	日帰り客	6,621		6,687	6,753	6,819	6,885	6,952
市内宿泊者数	総宿泊者数(千人)	1,570	中間年度で基準へ回復、以降最終年度までに2%上昇	*2 1,414	1,390	1,570	1,585	1,601
	外国人宿泊者数(人)	103,599	最終年度で基準へ回復	49,481	63,010	76,540	90,069	103,599
観光入込客数(千人)	全市	10,706	中間年度で基準へ回復、以降最終年度までに2%上昇	*2 13,629	8,632	10,706	10,813	10,920
	善光寺	6,436		*2 10,945	5,156	6,436	6,501	6,565
	戸隠	1,482		1,176	1,329	1,482	1,496	1,511
	松代	545		328	436	545	550	556

*1 基準値は、平成29～令和元年度を新型コロナの影響のない平常年と捉え、この期間の平均値とした。

*2 R4年度の指標のうち「総宿泊者数」「観光入込客数(全市および善光寺)」については、同年に善光寺御開帳が予定されていることから、前回(平成27年)の御開帳時の増加分を加えた(宿泊客数は平成23～26年の平均値と平成27年の差であった203万人、入込客数は御開帳参拝客総数であった707万人をそれぞれ加えた)。

■満足度、認知度、リピート率、コンベンション等参加者

		基準値 *3 (R2年度)	目標設定の考え方	R8年度 (最終年の目標)
各地域の満足度(%)	全市	49.7	最終年度までに10ポイント上昇	59.7
	善光寺	46.1		56.1
	戸隠	56.4		66.4
	松代	46.1		56.1
市内観光資源の認知度(%)	善光寺	84.9	最終年度に90%	90.0
	戸隠	65.5	最終年度に75%	75.0
	松代	37.0	最終年度に50%	50.0
リピート率(%)		61.3	最終年度までに10ポイント上昇	71.3
コンベンション等参加者(人)		10,220	最終年度に12万人	120,000

*3 基準値は令和2年度の値とした。

1 募集期間

令和3年12月1日（水）～令和3年12月27日（月）（必着）※郵送の場合は消印有効

2 閲覧場所及び意見・提案用紙の配布

- (1) 市役所 商工労働課又は観光振興課（第二庁舎3階）
- (2) 市役所 行政資料コーナー（第一庁舎3階）
- (3) 各支所の窓口
- (4) 市のホームページ等（「意見・提案用紙」はダウンロードできます）

3 意見等の公表

後日、検討結果を市ホームページで公表（個別回答は行いません。）

4 今後のスケジュール

